

普及・啓発の取組

(一般社団法人 日本建設機械工業会)

③普及啓発（日本建設機械工業会）

● 2023年度EPA活用推進WG 活動内容



③普及啓発（日本建設機械工業会）

- WG目標と振り返り（課題認識）

WGで設定した目標

EPA利用率引き上げによる国際競争力の強化に向けて

EPA利用可能な品目と関税削減額を把握し、EPA利用によるメリットと社内におけるEPAの位置づけを明確にすることで、EPAを積極的に利用していきましょう

② EPA利用効果の見える化

コンプライアンスを遵守したEPA利用の確立に向けて

正しく適切に原産地証明書の手続きを行うために、社内における必要なEPA業務を明確にし、社内外含めた管理体制を確立しましょう

① 個別の課題の見える化

課題認識

各社のEPA利活用状況、経営層のEPAに関する関心度、関連部署の理解等を踏まえ、**個々の会社に応じた適切な規模感でのEPAを利活用する枠組み作りを継続して検討していくことが今後に向けた課題であると認識しております。**

③普及啓発（日本建設機械工業会）

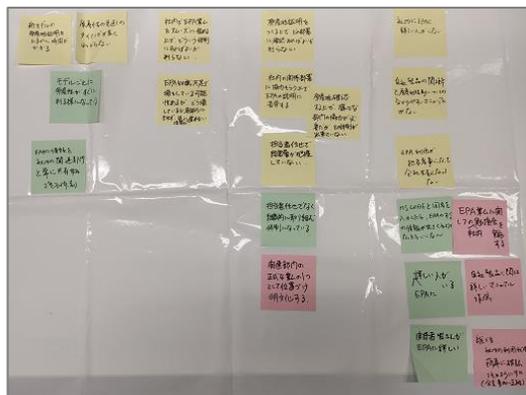
● 活動① 個別の課題の見える化

3つの壁	WG参加企業様の声
知識の壁	現地との認識の相違により通関時にトラブルが発生することがある
	HSコードの確認が難しい
	CTC？VA？品目別原産地規則が分からない
	社内で知識の底上げをするにはどうしたらよいだろうか？
社内の壁	EPA業務について相談できる人が社内にはいない
	組織的な運用ができておらず、属人的な運用になっている
	社内、特に製造側でEPAの認知が足りない
	サプライヤー窓口である購買部がEPAにあまり協力的でない
	定期的な原産性見直しの業務ができていない
協力企業の壁	サプライヤーからの協力が得られるか分からない
	協力を得難いサプライヤーに苦勞している
	サプライヤーがEPAについて十分に理解できていない
	サプライヤーに対してEPAの説明や教育をする工数が取れない

③普及啓発（日本建設機械工業会）

● 活動① 個別の課題の見える化

WG全4回、3つの壁をテーマにして各社の課題の共有を実施しました。



EPAクイズ

Q2 HSCコード世界共通は何桁まで？

世界共通で使われる輸出入する品目のための分類番号のことは6桁までが世界共通で、それ以後は各国で番号を付与

A2

EPAを利用するにあたり、HSCコードの確認が必要な場面が出てきます。皆さんは、HSCコードの確認にあたりどのような壁にぶつかっていますか？既にHSCコードの確認業務をされている方は、どのように確認を進め、社内でHSCコードの情報管理をしていますか？

Scene1: 購買部への協力依頼

産地さん
(東京共同建機 海外営業部)

- ▶ 共同製作所から購入している製品をインドネシアに輸出している
- ▶ その製品にはまだEPAを適用できていない
- ▶ 共同製作所に原産資格調査の対応をしてもらいたい
- ▶ 共同製作所への依頼書類送付は購買部に対応してもらいたい

建子さん
(東京共同建機 購買部)

- ▶ EPAについてよく分からない
- ▶ 海外営業部からいきなり依頼されても困る

WG効果（WG終了後の建機工会員企業の声）

- ✓ 他社の取り組みを知ることができ、勉強になった。
- ✓ 組織的に役割分担、資料保管等のルール化整備を進める。
そのためにもまずはEPA業務の認知度を上げる為に、早見表を使って効果額を算出し幹部への報告を実施したい。
- ✓ サプライヤーに協力してもらうためにも、サプライヤーへの明確かつ簡潔な説明をしていきたい。
- ✓ 検認への備えができていないことが分かったため、根拠資料をきちんと作成&保存していくようにしたい。

③普及啓発（日本建設機械工業会）

● 活動② EPA利用効果の見える化

EPA利用による関税の削減効果額を効率的に実施できるツールを準備し、建機工会員企業向けのページで公開しました。

使用するHSコード (HS2022)	品名	現	券	HSコード細分	Description	MFN税率 ※適用発生する関税率	インドネシア協定		
							第三国税率 0	原産地税率	原産地税率
							EPA税率	EPA適用メトリック (%に換算)	DFR
841350	噴霧器、スプレー機、又は噴霧装置又はこれら部分	噴霧装置(非蒸気型)又はこれら部分	その他	84135031	-- Water pump, with a flow rate not exceeding 2,000 m ³ /h ; -- Mechanically operated	5.0%	0.0%	5.0%	CTSH or VA406
				84135032	-- Water pump, with a flow rate not exceeding 2,000 m ³ /h ; -- Not mechanically operated	5.0%	0.0%	5.0%	CTSH or VA406
				84135040	-- Water pump, with a flow rate exceeding 2,000 m ³ /h but not exceeding 12,000 m ³ /h	5.0%	0.0%	5.0%	CTSH or VA406
				84135090	-- other	5.0%	0.0%	5.0%	CTSH or

早見表の活用効果

- 主な建機製品（アンケートで募集）について、
- ✓MFN税率とEPA税率から関税削減の税率が分かる
- ✓品目別原産地規則が分かる
- EPA利用効果額の算出がしやすくなる
- 協定（税率と原産地規則）を比較して最も適切なEPAを選択できる

建機工会員ページで公開中



③普及啓発（日本建設機械工業会）

● 各社の段階に応じた今後の取組み

WGを通じて顕在化した問題点

- ： 前任者から引き継いだことをそのまま継続
- ： サプライヤー向けの研修を実施できていない
- ： 検認への備えが出来ておらず不安
- ： EPAをすべての協定・国で活用できていない

- ： 効果額の算出が難しい
- ： EPA業務の業務分掌が不明確
- ： EPA業務に関する社内ルール未確立
- ： 自部門で業務を抱え込んでおり非効率的

- ： EPA業務について、各担当が手探りで対応
- ： 効果額の共有が出来ておらず、他部門に協力依頼しにくい
- ： EPA業務が社内で認識されていない

EPA業務構築の各段階における課題

業務フロー改善期

EPA活用効果最大化/リスク最小化に向けた業務見直し

- ・ 継続的な業務改善
- ・ サプライヤーへの協力要請、研修機会の提供
- ・ 検認への備え
(検認対応フローの検討、検認対応シミュレーション)

業務フロー準備期

- ・ 早見表を活用し、効果額を可視化
- ・ EPA業務要領ドラフト作成
(業務分掌、業務フロー、運用ルール等々)

業務フロー構築期

- ・ 関連部門への協力要請
- ・ 関連部門とEPA業務要領のすり合わせ
- ・ EPA業務要領の試験運用
- ・ EPA業務の確立

属人対応期

- ・ 関税削減効果 未把握
- ・ 業務定義されていない
- ・ 担当者個人が属人的に対応